

講演内容&スケジュールについて

来場型での開催となります
講座内容は同じです。ご都合のよい会場を選んでいただきお申込みください

講座日時・開催場所

大阪会場
東京会場

2025年5/19(月)
開催時間:14:00~17:00
(受付開始:開始時間30分前~)

2025年5/27(火)
開催時間:14:00~17:00
(受付開始:開始時間30分前~)

船井総合研究所 大阪本社
〒541-0041 大阪市中央区北浜4-4-10
船井総研大阪本社ビル
[地下鉄御堂筋線「淀屋橋駅」⑩番出口より徒歩2分]

船井総研グループ 東京本社
サステナグローススクエア TOKYO
〒104-0028 東京都中央区八重洲二丁目2番1号
東京ミッドタウン八重洲八重洲セントラルタワー35階
[JR/東京メトロ丸の内線「東京」駅 地下直結(八重洲地下街経由)]

申込期限

・銀行振込み:
開催日6日前まで
・クレジットカード:
開催日4日前まで

※祝日や連休により
変動する場合も
ございます。

受講料

■ 一般価格(1名様)

税込33,000円(税抜 30,000円)

■ 会員価格(1名様)

税込26,400円(税抜 24,000円)

※会員価格は、各種経営研究会・経営フォーラム、および社長onlineプレミアムプラン(旧:FUNAIメンバーズPlus)へ ご入会中のお客様のお申込みみに適用となります。
※諸事情により、やむを得ず会場を変更する場合がございますので、会場はマイページにてご確認ください。また最少催行人数に満たない場合、中止させていただくことが
ございます。尚、中止の際、交通費の払戻し手数料等のお支払いはいいたし兼ねますので、ご了承ください。

講演内容について

第1講座	今こそ考えたい幼稚園経営の未来 今後の“幼稚園”としての未来をが参照となる外部環境を交えて示唆しつつ、経営戦略の手段としての認定こども園移行についてお伝えしてまいります。 講座内容 ・昨今の幼保業界を取り巻く外部環境と幼稚園経営の未来 ・経営戦略としての認定こども園移行	株式会社船井総合研究所 子育て支援部 こども園・幼稚園チーム リーダー 高橋 勲功
第2講座	ゲスト講座 事例から学ぶ、認定こども園移行と運営安定化 認定こども園さそ幼稚園としての認定こども園への移行から運営安定化までの事例をお話しいたします。 講座内容 ・幼稚園文化を残したままの認定こども園移行の進め方 ・建て替えをせずに認定こども園をする際の障壁と解決策 ・認定こども園移行に関して苦労した点 ・認定こども園移行後の障壁と運営のコツ意識していること ・今後の法人・園としての展望	特別ゲスト講師 学校法人中村学園 園長代理 櫻井 真氏
第3講座	「安定した認定こども園運営」までの道しるべを徹底解説 ゲスト講座を踏まえ、認定こども園移行から移行後の運営を軌道に乗せるために、どのような点に注意して進めていくべきなのかポイントを絞って徹底的に解説します。 講座内容 ・制度理解に向けたポイント ・自治体対応に向けたポイント ・教職員対応に向けたポイント ・保護者対応に向けたポイント ・認定こども園移行をゴールではなくスタートにするためのポイント	株式会社船井総合研究所 子育て支援部 こども園・幼稚園チーム 石原 愛子
第1講座	明日から実践したいこと 本セミナーのまとめとして、特に重要なすぐ実践していきたいことをお伝えしてまいります。 講座内容 ・園経営の持続性を目指していくために考えたいこと ・今のまま経営するリスク ・明日から始めることができる認定こども園移行への準備	株式会社船井総合研究所 子育て支援部 こども園・幼稚園チーム リーダー 高橋 勲功

講師のご紹介

特別ゲスト
講師 学校法人中島学園
園長代理 櫻井 真氏

大学卒業後、幼稚園・保育園に教材教具を販売する会社に6年間勤務。新人金賞や若手優秀社員賞を受賞するなど社内表彰を受ける。その後、母が理事長・園長を務める学校法人中島学園に就職。前職での経験を活かし、幼稚園改革に着手。現在8年目。通信大学にて幼稚園免許状を取得。



株式会社船井総合研究所 子育て支援部
こども園・幼稚園チーム リーダー 高橋 勲功

一橋大学大学院経済学研究科修了後、入社。入社後は在学中で培った調査・分析能力を駆使して、施設型給付幼稚園・認定こども園移行サポートや、オンラインも併用した園児募集計画策定・実行支援をはじめとする、主に学校法人立の幼稚園や認定こども園への経営全般のコンサルティングに従事。



株式会社船井総合研究所 子育て支援部
こども園・幼稚園チーム 石原 愛子

早稲田大学国際教養学部卒業後、株式会社船井総合研究所に入社。在学中には中学校・高等学校一種免許状(英語)を取得し、教育システムを学ぶためにフィンランドへの留学を経験した。入社後は主に学校法人立の幼稚園、認定こども園、専門学校、大学への幅広いサポートを行う。SNSやWeb広告を活用した園児・生徒募集や、官公庁への申請業務の支援を行っている。



保育園化したくないあなたに伝えたい・・・!

幼稚園文化を残しつつも真剣に



3年後の園運営の未来を考えていきたい方へ

出生数
60万人時代に
伝えたい

募集人数

5年以上連続
100%を達成したまま
利用定員増加
することができた秘訣とは?

このように方に
おススメのセミナーです

- ✓ 幼稚園としての文化を大切にしたいと考えているが、現状維持に不安を覚えている方
- ✓ 直近1~2年の園児募集結果が大きく伸び悩んでいる方
- ✓ 現状の運営形態を残したまま認定こども園移行をしていきたい方
- ✓ 認定こども園移行後の園児募集体制に不安を感じている方
- ✓ 資材の高騰の影響もあり園舎の建て替えをせず認定こども園への移行を検討している方

特別
ゲスト
講師

学校法人中島学園
園長代理
櫻井 真氏

2大都市で
来場型開催
2025年
最新版!!

2大都市で
来場型
開催

2025年5/19(月) 大阪本社 | 5/27(火) 東京本社
開催時間:両日とも14:00~17:00 (受付開始:セミナー開始30分前) ※各回、同じ内容です。ご都合のよい日程をお選びください。

【2025年度版】私立幼稚園向け認定こども園移行セミナー お問い合わせ No.S127803

主催



サステナグロースカンパニーをもっと。
Funai Soken

株式会社船井総合研究所

〒541-0041 大阪市中央区北浜 4-4-10 船井総研大阪本社ビル

当社ホームページからお申込みいただけます。

(船井総研ホームページ [www.funaisoken.co.jp] 右上検索窓に [お問い合わせNo.] を入力してください)

127803



お申し込みはこちらから
※ご入金確認後、マイページのご案内を
もって、セミナー受付とさせていただきます。

お申込方法

お申込みはQRコード読み込みお申込みください!
または船井総研ホームページ (www.funaisoken.co.jp) にある右上の
検索窓に『127803』を入力、検索ください。

お申込み HP URL <https://www.funaisoken.co.jp/seminar/127803>

お問い合わせ

船井総研セミナー事務局

E-mail seminar271@funaisoken.co.jp

※お電話・メールでのセミナーお申込みは承っておりません。

※お申込みに関してのよくあるご質問は「船井総研 FAQ」と検索しご確認ください。

TEL : 0120-964-000 (平日 9:30 ~ 17:30)

お問合せNo.
S127803



I はじめに

幼稚園業界を取り巻く環境

2023年の出生数は**727,288人**と引き続き減少傾向です。また、2024年の出生数も推計値で**60万人台となる見込み**であることも踏まえると幼稚園における対象人口の減少は拍車がかかっていることは一目瞭然です。

さらに、2025年度はこども家庭庁も発足から3期目を迎え、令和6年度までの「新子育て安心プラン」終了に伴う新たな保育政策の方向性が唱えられています。その中にはこども誰でも通園制度の本格施行に向けた最終準備や教育・保育だけにとどまらない多様なニーズへの対応政策の創出も示されることとなり、**幼稚園としての運営を考えた際に益々厳しい環境の到来が想像できます**。一方でそんな“保育ニーズ”が上昇しているなか、保育所の定員割れの発生など、供給量の飽和も生じています。全国的に募集定員の充足はここ1～2年で加速度的に減少していることが如実に表れてきています。つまり仮にこれまで募集定員が充足していた幼稚園であっても、近い将来、具体的には3年後まで今までと同じことをしていると淘汰されてしまいます。

学校法人 中島学園 認定こども園 きそ幼稚園



学校法人中島学園は
東京都町田市にて認定こども園を1園、
小規模保育園を1園を運営している

認定こども園移行というスタートライン

上述の外部環境を加味すると、幼稚園としては、まず時代の流れに乗り認定こども園への移行による保育機能付加が必要不可欠な改革となります。対象人口が増加できることに加え、園としての収入源が施設型給付金へと変化し、より明確に把握していくことが可能となるためです。実際に教育・保育・福祉の壁を克服する動きが行政（国や各自治体）でも増えてきていて、認定こども園がスタートラインであるとされる動きが見えてきています。さらに、移行後3年スパンで見たときには認定こども園としての募集力基盤の構築が次の改革としてあげられます。しかし、現状から逸脱をするのは不安なことかと思えます。

学校法人中島学園は、東京都町田市にて幼稚園型認定こども園、小規模保育所を運営されています。その中でも特に今回ご紹介する「認定こども園 きそ幼稚園」は、時代の流れにいち早く乗り2019年に幼稚園型認定こども園へ移行をしました。

一般的に認定こども園へ移行してから3年間は対象人口拡大すること、また施設整備により園舎が綺麗になることで、移行そのものに募集改善効果が見込まれますが、その後の運営安定というのは維持していくための取り組みが必要となってきます。一方で、きそ幼稚園の場合は移行に伴い園舎の建て替えを実施していません。その中で取り組みが見事に奏功し**2025年度より利用定員を増加させることにも成功**しています。

そこで、本レポートでは「認定こども園移行に踏み切るまでの道のり」「なぜ移行後5年以上連続で募集定員100%を持続できているのか？」についてご紹介いたします。今後の幼稚園経営を真剣に検討されている読者の皆様の参考となる事例が多数紹介されておりますので、是非お時間をかけてご覧ください。

これまでの常識

各管轄が分断されていて、単一的

文部科学省

厚生労働省

教育

(幼稚園)

保育

(保育所)

内閣府

子育て支援

(認定こども園)

これからの常識

縦割りの壁を克服した包括的な連動した支援

こども

家庭庁

教育・保育・子育て支援・福祉

(認定こども園・幼稚園・保育所・児童発達支援)

Ⅱ 移行事例紹介

ゲスト紹介



学校法人中島学園
認定こども園 きそ幼稚園

園長代理 **櫻井 真** 氏

大学卒業後、幼稚園・保育園に教材教具を販売する会社に6年間勤務
新人金賞や若手優秀社員賞を受賞するなど社内表彰を受ける。
その後、母が理事長・園長を務める学校法人中島学園に就職
前職での経験を活かし、幼稚園改革に着手
通信大学にて幼稚園免許状を取得、2024年度より園長代理に就任

認定こども園移行を考えたきっかけ

きそ幼稚園（以下：当園）は2019年に幼稚園型認定こども園へ移行をしました。当園が認定こども園への移行を検討し始めたころ、町田市全体の人口減少のスピードよりも早く、当園における園児数の減少が著しかったです。移行前年度には10年前と比較すると約100名減少していました。このままいくと10年後の当園園児数が危ういと当時感じていました。

今後、子どもの数は減少していく一方であるなか、運営をどうするべきかを考えていた時に、認定こども園の存在を知りました。同時に、私は前職にて幼稚園・保育園向けに教材教具を販売する会社で営業をしており、そちらで担当していた首都圏エリアでも認定こども園へ移行をする幼稚園・保育園が増えてきていた実情も目の当たりにしていました。

きそ幼稚園の園児数推移



移行までの道のり

例外ではなく、当園園長もこのままの園児数に大きな危機感を感じており、認定こども園移行を選択肢の1つとして考え始めていましたが、どこから着手をしていけばいいのかがわかりませんでした。そんな時に、2016年に船井総合研究所の認定こども園移行セミナーに参加しました。

私も当園に入職をして以来、一貫して認定こども園への移行に向けて自治体と協議を進めていましたが地域の現状を踏まえると、認定こども園は必要ないため移行は難しいという趣旨の返答を受け続けていました。そんな中、専門家の同席のもとでの自治体交渉をしていきたいと考え、私自身も2018年に船井総合研究所のセミナーへ参加しました。

Ⅱ 移行事例紹介

認定こども園移行した後の変化

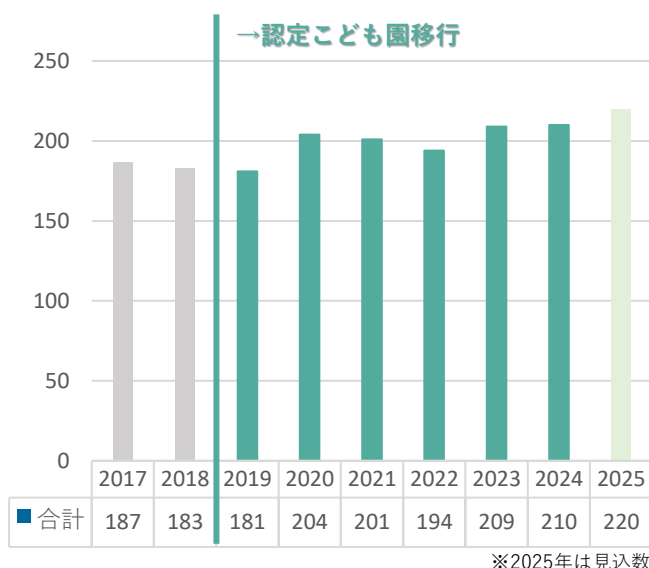
移行後2～3年目までの変化

認定こども園に移行した結果として、**子どもたちにとって、非常に良い環境へと変化**しました。

良い環境となった1点目は毎年の園児数、並びに充足率が大きく改善しました。移行前年度（2018年度）は全体で**183名**だった園児数が、移行2年度目（2020年度）には**204名**へと改善することができました。利用定員充足率は移行前年度が61%であったのに対し、以降3年度目は97%以上とこちらも大幅に改善をすることができました

2点目は職員数です。当園の職員数は移行に伴い30名（2018年度）から43名（2020年度）と**13名増員**しました。その甲斐もあって、2020年度には幼児教育の無償化の波にのり、満3歳児の受入を開始し、開始当初から**配置基準を6:1**で運用することができています。保護者への安心感を与えている1つの大きな要素でもあります。

認定こども園移行後 園児数の推移



移行7年目を迎えるにあたって

当園は認定こども園移行の際、大規模な施設整備をしていないため園児募集に関して、施設の外観だけによる魅力付けが困難な一面がありました。実際に移行3年目である2020年度における未就園児教室の集まりが難航しました。今後のさらなる子ども人口の減少に危機感をおぼえ、様々な施策を実施いたしました。例えば、定期的に数値確認を行いながら園児募集人数目標に対しての進捗管理を行ったり、LINE公式アカウントやInstagram等の**SNSを有効活用**した園児募集施策に力を入れてきました。

それらの施策が功を奏し、認定こども園へ移行してからの**7年間**（2019年～2025年）当園として**募集をかけている年少園児数を毎年100%達成**すること、**2025年度は220名の園児数確保**に見込が立っております。また、園児数の確実な確保により令和7年度（2025年度）より**210名から220名への定員変更**を行い、更なる教育・保育の展開に着実に繋げることができています。

幼稚園文化を残したままの移行で苦労した点

永続的に“幼稚園”の形を残していくために

前項の通り、当園のおかれている状況からも認定こども園への移行を検討している中、**自治体から10園の小規模保育所を開設するため事業者の公募**が発表されました。そこで、当園としてはこれまで大切にしてきた“幼稚園”という形から**変わってしまうことへの不安**が大きくありました。創立以来大事にしてきた教育理念・教育方針を永続させていきたいという想いも強くあったため、受入対象人口を広げていくべく未満児の受入ができる小規模保育所の運営に手を上げました。同時に保育所**卒園児の受け皿としての幼稚園型認定こども園**への移行に関する必要性を同時に訴えることで、自治体には何とか認定こども園への移行が認められました。

01 当園として目指すべき方向性の定義

02 経営計画の策定

03 経営方針発表会の実施

内部体制の徹底的な整備

認定こども園へ移行してからが本当の意味での“スタート”でした。当園では、**移行してからも問題が山積み**でした。具体的には倍増した教職員の育成・定着や、働き方改革、新規採用、認定こども園移行に伴う教育・保育の見直しなど人材に関する課題を多く抱えていました。

理事長・園長も私も移行してからわからないことだらけでしたので、船井総合研究所に移行後も引き続きお世話になり、左記のステップを進めた結果、前述の毎年募集年少人数100%超えにも寄与しているのだと考えています。

Ⅲ 認定こども園移行“だけ”では終われない！？

執筆者



株式会社船井総合研究所
子育て支援部 教育グループ
こども園・幼稚園チーム
リーダー

高橋 叡功

一橋大学大学院経済学研究科修了後、株式会社船井総合研究所に入社。大学院在籍中は公共経済学・財政学や行動経済学を専門にする。入社後は在学中培った調査・分析能力を駆使して、施設型給付幼稚園・認定こども園移行サポートや、オンラインも併用した園児募集計画策定・実行支援をはじめとする、主に学校法人立の幼稚園や認定こども園への経営全般のコンサルティングに従事している。細やかな数値分析を基にしたコンサルティングスタイルを得意としていて、その精度には定評がある。近年では中期経営計画策定・実行支援のコンサルティングサービスも提供をしている。

認定こども園移行という手段を考える

学校法人中島学園 櫻井氏のお話の中でも触れられていましたが、認定こども園移行は今後の幼稚園経営を考えた際のスタートラインにしか過ぎません。

冒頭でも記載した通り、幼保業界、とりわけ幼稚園業界を取り巻く環境は年々深刻さを増しています。その中で、外部環境として考えた際にも認定こども園への移行は一丁目一番地で視野に入れて考えていきたい手段です。実際に令和7年度末までに72.2%の幼稚園が認定こども園含む新制度への移行を予定しています。

上記を踏まえると容易に想像ができるが認定こども園であることそのものが“土俵”そのものになる時代が次期に訪れるということです。そこで重要となってくる考え方は、如何に園として入園していただきたい保護者に向けて「認知」する活動ができているかという点に尽きると思います。具体的には移行後も変わらぬ園の“文化”を中心とした、法人理念を基に園としてのコンセプト設計を行い、様々な手段を活用して幼稚園が行っている取り組みをまず知っていただくという流れが必要不可欠となります。

これまでの常識としては、認定こども園移行してから3年間は対象人口拡大すること、移行そのものに募集改善効果が見込まれますが、その後の運営安定というのは維持していくための取り組みが必要となってきます。

実際に、きそ幼稚園の場合は移行に伴い園舎の建て替えを実施していませんので、外観の大きな変化というものはありません。故に、少し早めの移行3年目にはすでに状況改悪の兆しが見え始めていました。そこで、櫻井氏はこれまで口コミに頼り切りで手薄であったきそ幼稚園としての認知活動を開始し、具体的には、LINE公式アカウント、Instagram、SNS広告、MEOを組み合わせ活用して、未就園児教室や満3歳児の充足を維持し続けました。その効果もあり移行後、そして昨今の外部環境下でさえも募集定員を7年連続100%維持したまま利用定員を増加することに成功されています。



LINE広告



Instagram

Ⅳ セミナー案内

最後になりますが、今回ご紹介させていただいた
学校法人中島学園 認定こども園 きそ幼稚園 園長代理 櫻井 真 氏
をお招きし、東阪2会場にて
「【2025年度版】私立幼稚園向け認定こども園移行セミナー」を開催いたします！

セミナーでお伝えする内容（一部）

認定こども園への移行について

1. 幼稚園業界を取り巻く環境と今後の幼稚園経営の見通し
2. 実際に認定こども園移行するために必要な5つのポイントとは
3. 園舎建て替えなしの認定こども園移行事例
4. 移行前に把握しておきたい認定こども園制度理解
5. 受入対象年齢拡大に向けた取り組み
6. 教職員配置の基本的な考え方とは
7. 幼稚園文化を残したままの認定こども園移行の進め方
8. 認定こども園移行に関して障壁となる点とその乗り越え方とは

認定こども園移行後の安定した園運営について

1. 移行後の募集定員を5年以上連続100%達成するための秘訣
2. 移行後運営が安定するまでのロードマップの立て方
3. 認定こども園移行をゴールにしないために考えたいこと
4. 運営安定化のために考えていきたい3つのポイントとは？
5. 認定こども園移行後こそ考えたい制度理解に向けて
6. 認定こども園としての組織体構築
7. 園運営の永続性を目指していくために考えたいこと

V お客様の声

ご参加された方のご感想

本セミナーにご参加いただいた皆様のご感想をご覧ください。認定こども園移行を進めるにあたり悩んでいる法人にご参加いただき、ご参加者同士で情報交換をしていただいたり、ゲスト講師や弊社メンバーと意見交換をしていただいたりする等して、本セミナーを有効にご活用いただいていることがわかります。

来場セミナー参加者の声

3. 第三講座を受講して得た気づきや、「今すぐ実行したい」と感じたことをお書きください。

移行時の書類の整備がとて難しいのでは。
移行を考える場合は、サポートパートナーが必要だと感じました。

2. 第三講座を受講して得た気づきや、「今すぐ実行したい」と感じたことをお書きください。

移行への試算は、適切に行うことが重要だと感じた。
特に最近、実態調査が厳しく行われる傾向にあるので、
各種規定、マニュアルの見直しも、移行に関わらず、行う必要がふよと感じて了。

2. 第二講座を受講して得た気づきや、「今すぐ実行したい」と感じたことをお書きください。

貴重なお話をありがとうございました。
移行に向け不安を感じていた事が同じだったので解決できると感じれて良かったです。

3. 第三講座を受講して得た気づきや、「今すぐ実行したい」と感じたことをお書きください。

現状の園の規模や認定こども園に移す場合、どのくらい収容が適うのかは常に確認しておきたい
という事で感じ。移行に向けては、まずは現状の把握が大切。
創設中でした。

3. 第三講座を受講して得た気づきや、「今すぐ実行したい」と感じたことをお書きください。

勉強不足でしたが、基本の情報がわかりやすかったです。
何も始まっていませんが、何かを始めたかと思いました。

その他セミナー参加者の声

- ・ 移行の経緯から現在の運営内容や施設などたっぷりご紹介いただき大変参考になりました。
- ・ 移行をされたきっかけや職員説明、また、採用の方法等、今不安な所を知ることができました。
- ・ 漠然とですがこども園を検討している中、良いタイミングでこの講座に出会えました。
- ・ 大変になる部分(職員募集や園文化の維持等)も知ることができて良かったです。
- ・ 認定こども園に移行をしたことで園の運営に勢いがついたことをご講演を拝聴して感じました。